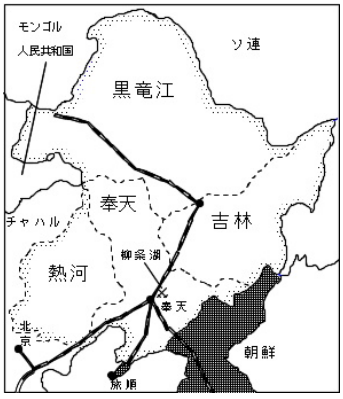
［A］協調外交の挫折と政党内閣の終焉

	外交	軍部の動向
浜口雄幸〔立憲民政党〕 幣原喜重郎〔外相〕	**1930年　ロンドン海軍軍縮条約**（全権＝**若槻礼次郎**・財部彪〔海相〕） ①主力艦の建造禁止を5年間延長 ②補助艦の保有率制限→米英：日＝10：6.97（約7割） 1930年　**統帥権干犯問題**（ロンドン海軍軍縮条約の調印をめぐる政府と軍部の対立） 加藤寛治〔海軍軍令部長〕が内閣による兵力量の決定は統帥権の侵害と政府を攻撃 →野党の立憲政友会・右翼もこれに同調するが，政府は反対を押し切って条約を批准 ★浜口雄幸狙撃事件（1930年に東京駅で狙撃され翌年死亡）→内閣総辞職 ［対中国協調外交］ ①国民政府の国権回復運動（中国を統一した国民政府が中国権益の回収運動を開始） 税権・法権の回復，鉄道・租借地の回収などを要求→日貨排斥運動・満鉄並行線計画を推進 ②日中（日華）関税協定（1930）（中国の関税自主権を承認） ③松岡洋右「満蒙は日本の生命線」（満蒙権益の危機を主張）	［国家改造運動］ ①桜会結成（1930） 国家改造を唱える陸軍の秘密結社 中心＝橋本欣五郎（陸軍中佐） 大川周明（民間人の右翼）
若槻礼次郎②〔立憲民政党〕 幣原喜重郎〔外相〕	**満州事変　（1931～1933）** 1931年　関東軍の満州事変画策 画策＝石原莞爾〔参謀〕『世界最終戦論』・板垣征四郎〔参謀〕・本庄繁〔軍令司官〕 ★中村大尉事件（中村震太郎大尉が殺害される） 万宝山事件（朝鮮人農民と中国人農民の衝突） **1931年**（9月18日）　**柳条湖事件**（関東軍が奉天郊外の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破） ★満州事変勃発→若槻内閣は不拡大方針を表明するが，関東軍はこれを無視し戦域拡大 →安達謙蔵〔内相〕の倒閣運動により，閣内不統一で内閣総辞職	③十月事件（1931） 桜会による荒木貞夫首相擁立計画
犬養毅〔立憲政友会〕 芳沢謙吉〔外相〕	1932年　関東軍が東三省（奉天（遼寧）・吉林・黒竜江）を占領 ★中国は国際連盟に提訴→国連はリットン調査団（英・米・独・仏・伊）を派遣 1932年　第一次上海事変（日本人僧侶が中国人に襲撃された事件を契機に上海に出兵） **1932年　満州国**建国（執政（国家元首）＝溥儀（清朝最後の皇帝宣統帝→のち皇帝）） スローガン＝「王道楽土」・「五族協和」（満・漢・蒙・朝・日の5民族協力） →実際は日本人が行政機関の要職を独占した日本の傀儡国家 ★国際的な孤立化を招いてしまうため，犬養毅内閣は満州国承認を渋る **1932年　五・一五事件**（犬養毅首相を海軍青年将校らが殺害） 政党内閣の終焉（憲政の常道終了）→内閣総辞職	④血盟団結成（1932） 「一人一殺主義」で政界・財界の 要人暗殺を唱える民間の右翼団体 ★中心＝井上日召（日蓮宗僧侶） **⑤血盟団事件（1932）** 井上準之助〔前蔵相〕殺害（2月） 団琢磨〔三井合名理事長〕殺害（3月）
斎藤実〔海軍大将〕挙国一致内閣（中間内閣） 内田康哉〔外相〕	★内田康哉〔外相〕の「焦土外交」演説（国が焦土と化しても満州国の承認を主張） **1932年　日満議定書**（日本政府が満州国を承認・満州国は日本軍の駐兵を承認） ［国際連盟臨時総会（1933）］ リットン調査団の報告書に基づき，満州からの日本軍撤退勧告案を42票：1票で可決 →松岡洋右〔全権〕が退場→のち国際連盟脱退を通告（1933） **1933年　塘沽停戦協定**（国民政府は日本の満州支配を黙認＝満州事変終了） 日満議定書の後も日本は侵攻を続け熱河省に進出。一方，国民政府は中国国内で対立 いた共産党の弾圧に重点を置いたため，熱河省を満州国に組み込むことで停戦に応じた	

［ファシズム（全体主義）の進展］

1932年　日本国家社会党（社会民衆党を脱党した赤松克麿らが結成）

1933年　佐野学・鍋山貞親〔共産党幹部〕の転向

★小林多喜二（『蟹工船』を著したプロレタリア文学作家）が特別高等警察の拷問により虐殺される（1933）

1933年　滝川事件（滝川幸辰〔京都帝国大学教授〕の『刑法読本』が反国体的な刑法学説であるとして，鳩山一郎〔文相〕により休職処分とされる）

経　済　政　策

浜口雄幸（立憲民政党）　（若槻礼次郎②）

井上準之助（蔵相）＝デフレ政策

①デフレーション政策を推進（物価安による輸出拡大をはかる）
- (1) 緊縮財政（歳出を抑制することで物価の引下げをはかる）
  - 歳出を抑制→通貨流通量が減少→購買力が低下→物価が下がる
- (2) 産業合理化（人員整理・機械化による経営の能率化をはかる）
  - 生産性の低い企業を整理・淘汰して国際競争力を高める

②**金解禁（金輸出解禁）(1930)**
- 金本位制への復帰による為替相場の安定と輸出の拡大を図る
- →実質的に円の切上げ(円高)となる旧平価(100円＝49.85ドル)で金解禁実施

［世界恐慌(1929～)］
米国ニューヨークのウォール街の株価大暴落を契機とした世界的経済恐慌

③**昭和恐慌**（世界恐慌の最中に金解禁を断行したため，正貨が大量に流出）
- →農業恐慌（米価下落・アメリカへの生糸輸出の激減により繭価暴落）
  - (1) 1930年の大豊作による米価下落で農業生産が一層悪化（豊作貧乏）
    - ★米騒動(1918)後の植民地(台湾・朝鮮)からの移入米も影響
  - (2) 1931年には大凶作による東北大飢饉などで農村困窮が深刻化
    - →欠食児童（食事を十分にとれない生徒）や若い女子の身売りが続出

④**重要産業統制法(1931)**（産業合理化の一環としてカルテル結成を助成）
- ★カルテル（同じ産業の企業が販売価格などを統一するため結ぶ協定）
- cf. トラスト（同じ産業の企業が市場支配・独占を目的に行う合同）

犬養毅（立憲政友会）

高橋是清（蔵相）＝インフレ政策

①**金輸出再禁止(1931)**（金の流出が激しいため，金本位制を停止）
- →**管理通貨制度**（政府が国内の紙幣流通量を管理する制度）へ移行

②低為替政策（しばらく放置して，意図的に円為替相場を低下させる）
- →**円安**（円為替相場の下落）へ導く（1ドル=2円→1ドル=5円）

③**円安**（円為替相場の下落）を利用して輸出拡大
- →綿織物(綿布)の輸出が世界一位に（イギリスを抜く）

④各国がこれをソーシャル＝ダンピングと非難
- ★ソーシャルダンピング（労働者の賃金を不当に安く抑えて価格を低くする）
- →ブロック経済圏（自国と，その国の植民地との間の排他的な経済圏）へ

斉藤実

⑤赤字国債(公債)の発行（日本銀行の引受けにより多額の資金を調達）
- →積極(膨張)財政（軍事費と農村救済費を中心とする財政支出の拡大）
  - (1) 時局匡救費（1932年に実施された農村救済のための公共土木事業費）
  - (2) 農山漁村経済更生運動（農村救済のための自力更生と隣保共助を提唱）

岡田啓介

⑥重化学工業の発達
- (1) 製鉄大合同(1934)
  - →日本製鉄会社（八幡製鉄を中心に製鉄会社が合併した国策会社）
  - ★金属・機械・化学工業が工業生産額の50%以上を占める(1937)
- (2) **新興財閥**（満州事変後，国に協力し重化学工業を発展させた財閥）
  - ★独自の金融機関を持たないことが弱点

鮎川義介＝日産コンツェルン（満州に進出→満州重工業開発会社を設立）
野口　遵＝日窒コンツェルン（朝鮮に進出→日本窒素肥料会社を設立）
大河内正敏＝理研コンツェルン（理化学研究所(1925)を母体に発展）
中野友礼＝日曹コンツェルン（日本曹達会社を中心に形成）
森　矗昶＝森コンツェルン（昭和電工を中心に形成）

図解NOTE①［井上財政］

①金本位制停止(金輸出禁止)(1917)
- 第一次世界大戦の影響から欧米諸国が金本位制を停止したため

②1920年代の相次ぐ恐慌のため金本位制に復帰できず
- ex. 戦後恐慌(1920)・震災恐慌(1923)・金融恐慌(1927)
- ★主要国は金本位制に復帰していたが，日本は関東大震災や金融恐慌のため，金本位制への復帰が実現できないでいた

③恐慌に対して政府は救済融資で対応(不換紙幣の増発)
- →インフレ(物価高)が進行→輸出不振・輸入超過

④為替相場の動揺（金本位制・金兌換を停止したため）
- (1) 円売り・ドル買いが進行し，円の信用度が低下
- (2) 円安（円為替相場の下落）・ドル高（ドル為替相場の上昇）

⑤輸出拡大による景気回復をめざす
- (1) 物価を引下げる(デフレ)→緊縮財政
- (2) 国際競争力を強化させる→産業合理化
- (3) 為替相場を安定させる
  - →金本位制へ復帰(金輸出解禁(金解禁))

⑥but 世界恐慌の影響と重なり，輸出不振・輸入超過
- →金解禁を断行したため正貨が大量に流出＝昭和恐慌

図解NOTE②［高橋財政］

①金本位制を停止したため，為替相場は変動する
- →円売り・ドル買いが進行し，円の信用度が低下

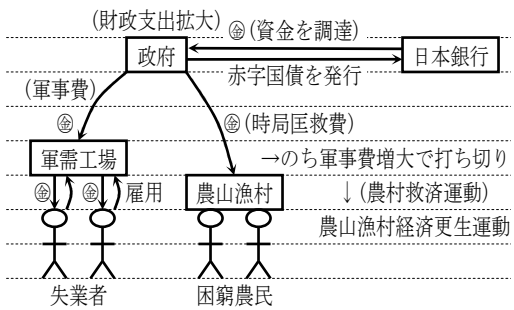
②高橋是清は意図的に円安に導く(低為替政策)
- →1ドル=2円から1ドル=5円の急激な円安になる

③カルテル結成による価格の引き下げと輸出に有利な円安を利用して輸出を拡大
- →綿織物(綿布)の輸出がイギリスを抜いて世界一位に

④この時，金輸出再禁止による円安を見込んで，日本で
- 三井などの財閥によるドル買い(ドルの上昇を予測して，あらかじめ円売り・ドル買いしておくこと)が行われた

⑤巨額の利益をあげた財閥に対する批判が高まる

図解NOTE③［積極(膨張)財政］



	外交	軍部の動向

〔外相〕

年（全権＝・〔海相〕）
①の建造禁止を年間延長
②の保有率制限→：＝10：6.97（約割）

1930年（ロンドン海軍軍縮条約の調印をめぐる政府と軍部の対立）
〔海軍軍令部長〕が内閣による兵力量の決定は統帥権の侵害と政府を攻撃
→野党の立憲政友会・右翼もこれに同調するが，政府は反対を押し切って条約を批准
★狙撃事件（1930年に駅で狙撃され翌年死亡）→内閣総辞職

［対中国協調外交］
①国民政府の国権回復運動（中国を統一した国民政府が中国権益の回収運動を開始）
↓ 税権・法権の回復，鉄道・租借地の回収などを要求→日貨排斥運動・満鉄並行線計画を推進
②（1930）（中国の関税自主権を承認）
③「は日本の生命線」（満蒙権益の危機を主張）

［国家改造運動］
①結成（1930）
国家改造を唱える陸軍の秘密結社
中心＝（陸軍中佐）
（民間人の右翼）
②（年）
桜会による首相擁立計画

〔外相〕

（1931～1933）

1931年 関東軍の満州事変画策
画策＝〔参謀〕『』・〔参謀〕・〔軍令司官〕
★（大尉が殺害される）
（朝鮮人農民と中国人農民の衝突）

年（が郊外ので南満州鉄道の線路を爆破）
(9月18日) ★勃発→若槻内閣は不拡大方針を表明するが，関東軍はこれを無視し戦域拡大
→〔内相〕の倒閣運動により，閣内不統一で内閣総辞職

③（年）
桜会による首相擁立計画

芳沢謙吉〔外相〕

1932年 関東軍が東三省（（）・・）を占領
★中国は国際連盟に提訴→国連は（英・米・独・仏・伊）を派遣
年（日本人僧侶が中国人に襲撃された事件を契機に上海に出兵）

年 建国（（国家元首）＝（清朝最後の皇帝→のち皇帝））
スローガン＝「」・「」（満・漢・蒙・朝・日の5民族協力）
→実際は日本人が行政機関の要職を独占した日本の傀儡国家
★国際的な孤立化を招いてしまうため，犬養毅内閣は満州国承認を渋る

年（首相を海軍青年将校らが殺害）
政党内閣の終焉（終了）→内閣総辞職

④結成（1932）
「一人一殺主義」で政界・財界の要人暗殺を唱える民間の右翼団体
★中心＝（日蓮宗僧侶）
⑤（年）
〔前蔵相〕殺害（2月）
〔三井合名理事長〕殺害（3月）

〔海軍大将〕

〔外相〕

★〔外相〕の「焦土外交」演説（国が焦土と化しても満州国の承認を主張）
年（日本政府が満州国を承認・満州国は日本軍の駐兵を承認）

［臨時総会（年）］
の報告書に基づき，満州からの日本軍撤退勧告案を票：1票で可決
→〔全権〕が退場→のち脱退脱退を通告（年）

年（国民政府は日本の満州支配を黙認＝満州事変終了）
日満議定書の後も日本は侵攻を続けに進出。一方，国民政府は中国国内で対立いた共産党の弾圧に重点を置いたため，を満州国に組み込むことで停戦に応じた

［ファシズム（全体主義）の進展］
1932年（社会民衆党を脱党したらが結成）
1933年・〔共産党幹部〕の
★（『』を著したプロレタリア文学作家）が特別高等警察の拷問により虐殺される（1933）
1933年（〔京都帝国大学教授〕の『』が反国体的な刑法学説であるとして，〔文相〕により休職処分とされる）

経　済　政　策

〔蔵相〕＝デフレ政策

①＿＿＿＿＿＿政策を推進（物価安による輸出拡大をはかる）
- (1) ＿＿＿＿＿＿（歳出を抑制することで物価の引下げをはかる）
  歳出を抑制→通貨流通量が減少→購買力が低下→物価が下がる
- (2) ＿＿＿＿＿＿（人員整理・機械化による経営の能率化をはかる）
  生産性の低い企業を整理・淘汰して国際競争力を高める

②＿＿＿（＿＿＿＿＿）（＿＿年）
金本位制への復帰による為替相場の安定と輸出の拡大を図る
→実質的に円の切上げ(円高)となる＿＿＿(100円＝49.85ドル)で金解禁実施

［＿＿＿＿（＿＿年～）］
＿＿＿＿＿の＿＿＿＿の株価大暴落を契機とした世界的経済恐慌

③＿＿＿＿（世界恐慌の最中に金解禁を断行したため，正貨が大量に流出）
→＿＿＿＿＿（＿＿下落・＿＿＿への＿＿輸出の激減により＿＿暴落）
(1) 1930年の大豊作による米価下落で農業生産が一層悪化（豊作貧乏）
★＿＿＿(1918)後の植民地(台湾・朝鮮)からの移入米も影響
(2) 1931年には大凶作による東北大飢饉などで農村困窮が深刻化
→＿＿＿＿（食事を十分にとれない生徒）や若い女子の身売りが続出

④＿＿＿＿＿＿（＿＿年）（産業合理化の一環として＿＿＿結成を助成）

★＿＿＿＿（同じ産業の企業が販売価格などを統一するため結ぶ協定）
cf. ＿＿＿＿（同じ産業の企業が市場支配・独占を目的に行う合同）

〔蔵相〕＝インフレ政策

①＿＿＿＿＿＿（＿＿年）（金の流出が激しいため，金本位制を停止）
→＿＿＿＿＿＿（政府が国内の紙幣流通量を管理する制度）へ移行

②＿＿＿＿＿＿（しばらく放置して，意図的に円為替相場を低下させる）
→＿＿＿（円為替相場の下落）へ導く（1ドル＝2円→1ドル＝5円）

③＿＿＿（円為替相場の下落）を利用して輸出拡大
→＿＿＿＿（＿＿＿）の輸出が世界一位に（＿＿＿＿を抜く）

④各国がこれを＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿と非難
★＿＿＿＿＿＿＿＿（労働者の賃金を不当に安く抑えて価格を低くする）
→＿＿＿＿＿＿（自国と，その国の植民地との間の排他的な経済圏）へ

⑤赤字国債(公債)の発行（日本銀行の引受けにより多額の資金を調達）
→積極(膨張)財政（軍事費と農村救済費を中心とする財政支出の拡大）
- (1) ＿＿＿＿（1932年に実施された農村救済のための公共土木事業費）
- (2) ＿＿＿＿＿＿（農村救済のための＿＿＿＿と隣保共助を提唱）

⑥重化学工業の発達
(1) 製鉄大合同(1934)
→＿＿＿＿＿＿（八幡製鉄を中心に製鉄会社が合併した国策会社）
★金属・機械・化学工業が工業生産額の50%以上を占める（＿＿年）
(2) ＿＿＿＿＿＿（満州事変後，国に協力し重化学工業を発展させた財閥）
★独自の金融機関を持たないことが弱点

＿＿＿＝＿＿＿コンツェルン（満州に進出→＿＿＿＿＿＿を設立）
＿＿＿＝＿＿＿コンツェルン（朝鮮に進出→＿＿＿＿＿＿を設立）
＿＿＿＝＿＿＿コンツェルン（＿＿＿＿＿(1925)を母体に発展）
＿＿＿＝＿＿＿コンツェルン（日本曹達会社を中心に形成）
＿＿＿＝＿＿＿コンツェルン（昭和電工を中心に形成）

斉藤実　岡田啓介

図解NOTE①［井上財政］

①＿＿＿停止（＿＿＿＿）（＿＿年）
第一次世界大戦の影響から欧米諸国が金本位制を停止したため

②1920年代の相次ぐ恐慌のため金本位制に復帰できず
ex.＿＿＿（＿＿）・＿＿＿（＿＿）・＿＿＿（＿＿）
★主要国は金本位制に復帰していたが，日本は関東大震災や
金融恐慌のため，金本位制への復帰が実現できないでいた

③恐慌に対して政府は救済融資で対応(不換紙幣の増発)
→＿＿＿＿（物価高）が進行→＿＿不振・＿＿超過

④＿＿＿の動揺（金本位制・金兌換を停止したため）
(1) 円売り・ドル買いが進行し，円の信用度が低下

(2) 円安（円為替相場の下落）・ドル高（ドル為替相場の上昇）

⑤輸出拡大による景気回復をめざす
(1) 物価を引下げる(デフレ)→＿＿＿
(2) 国際競争力を強化させる→＿＿＿＿＿
(3) 為替相場を安定させる
→金本位制へ復帰（＿＿＿＿（＿＿＿））

⑥but ＿＿＿＿の影響と重なり，輸出不振・輸入超過
→金解禁を断行したため正貨が大量に流出＝＿＿＿

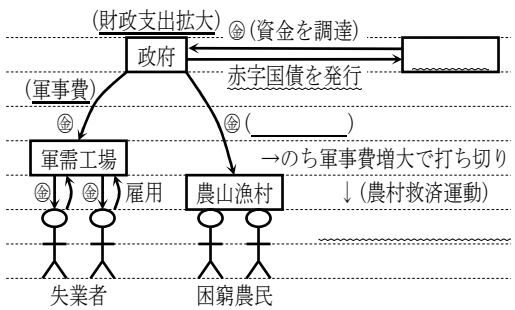
図解NOTE②［高橋財政］

①金本位制を停止したため，為替相場は変動する
→円売り・ドル買いが進行し，円の信用度が低下

②高橋是清は意図的に円安に導く（＿＿＿＿＿）
→1ドル＝2円から1ドル＝5円の急激な＿＿になる

③カルテル結成による価格の引き下げと
輸出に有利な＿＿を利用して輸出を拡大
→＿＿＿（＿＿）の輸出が＿＿＿＿を抜いて世界一位に

④この時，金輸出再禁止による円安を見込んで，日本で
＿＿＿などの財閥による＿＿＿＿(ドルの上昇を予測して，
あらかじめ円売り・ドル買いしておくこと)が行われた

⑤巨額の利益をあげた財閥に対する批判が高まる

図解NOTE③［積極(膨張)財政］